

横山大阪市長が施政方針演説

カジノ・大型開発を推進

18日の大阪市議会本会議で、横山英幸市長（大阪維新の会幹事長）が就任後初の施政方針演説を行い、これまでの維新市政を継承し、「府市一体の成長」の名でカジノを

大阪のカジノ誘致計画

核とする統合型リゾート（IR）の誘致や夢洲開発、なにわ筋線や淀川左岸線2期事業など巨大開発推進を打ち出しました。

横山氏は「課題に真摯（しんしん）に対応」と述べたものの、具体的に示したのは従来通りのギャンブル依存症対策だけで、「世界最高水準の成長型IRの開発を目指す」などと述べました。

コロナ禍を経て保健所体制の抜本的な充実強化が課題になっているにもかかわらず、言及したのは現在の保健所庁舎の移転・集約のみ。「原油価格・物価高騰など市民生活に著しい影響を及ぼす事態などに対し、スピード感を持って必要な支援を行う」と言うものの、今年度だけで10%もの値上げとなる国民健康保険料は「市民負担増は眼中にありません」。

「日本一の子育て・教育サービスの実現」を掲げて幼児教育や保育無償化などを挙げましたが、少人数学級の実現や教職員への負担軽減、テスト漬け教育の是正などには触れませんでした。

(2023年5月28日付
大阪民主新報)